

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：23304

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K23136

研究課題名(和文)ボンディング障害と虐待的育児との因果関係の解明

研究課題名(英文)Elucidation of the causal relationships between bonding disorders and abusive childcare

研究代表者

片山 美穂 (Katayama, Miho)

公立小松大学・保健医療学部・講師

研究者番号：90880724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：ボンディング障害とは子供をかわいいと思えなかったり攻撃したくなる衝動が起こる状態を指す。そのボンディング障害と虐待的育児の関係を母親の体験から解明した。その結果、以下のことが明らかになった。ボンディング障害は母親の置かれた状況と条件によりその程度が変化する、ボンディング障害は母親の置かれた状況と条件により虐待的育児を引き起こす、母親はボンディング障害を自覚している場合が多い、ボンディング障害があっても母親には様々なストレングスがある、である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ボンディング障害が虐待的育児を引き起こす状況と条件がわかった。母親は自身のボンディング障害を自覚し、自分の育児を変えたいと願っていた。そして、それら母親は様々な力(ストレングス)を持っていた。母親に対し問題点の解決からではなく、元々持っているストレングスからアプローチすることにより、新たな虐待的育児防止の支援方法が創出できる可能性が出てきた。

研究成果の概要(英文)：Bonding disorder is a condition that causes an inability to think of children as cute or an urge to attack them. The relationship between bonding disorder and abusive parenting was elucidated from the mothers' experiences. The results revealed the following. (1) Bonding disorder varies in degree depending on the mother's circumstances and conditions, (2) bonding disorder causes abusive parenting depending on the mother's circumstances and conditions, (3) mothers are often aware of their bonding disorder, and (4) mothers have various strengths even when they have bonding disorder.

研究分野：精神保健看護、母性保健看護

キーワード：育児行動 ボンディング障害 抑うつ状態 虐待的育児防止 母親 グラウンデッド・セオリー・アプローチ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 本邦においては、従来より児童虐待防止対策の充実が図られているが、依然深刻な児童虐待事件は後を絶たない。これまで、虐待的育児は母親の抑うつや育児不安が要因であると考えられてきた (DeBellis, M.ら, 2001; 田口, 2007; 厚生労働省, 2019)。申請者も、抑うつ状態にある母親がある状況下にあっては虐待的育児を行うことを報告してきた (Katayama & Kitaoka, 2018; 片山ら, 2019; 片山ら, 2020)。しかし最近、Ohashi ら (2019) は、産後うつではなくボンディング障害が虐待的育児の強い要因である可能性を報告している。ボンディング障害とは、自分の子どもに愛情や慈しみの感情が湧かず、子どもを世話したい、守りたいという感情が弱く、逆にイライラしたり敵意を感じ、攻撃したくなる衝動が出てくる心理状態を指している (日本周産期メンタルヘルス学会, 2017)。産後うつとボンディング障害は相関しており (O' Higgins ら, 2013)、両者が虐待的育児の予測要因となりうる (Kitamura ら, 2013)。このボンディング障害は、母子の相互作用に負の影響を与え (Muzik ら, 2013)、児の情緒や行動の問題を大きくする (Behrendt ら, 2019) ことが報告されている。

(2) ボンディング障害に関する臨床研究が盛んになってきたのは 1990 年代からである。近年、ボンディング障害は産後うつ病と同等あるいはそれ以上の問題として重要な課題となってきている。しかし、ボンディング障害については研究され始めたばかりで、虐待的育児との関係に関する知見の集積はまだ十分とは言えない。特に縦断的調査による報告は見られない。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、ボンディング障害をもつ母親の育児中の思いと育児行動から虐待的育児との因果関係を解明することである。新たに注目されている概念の実用性に対して解答を得る挑戦と考えている。本研究では、母親ひとり一人に半構成的な面接を行い、母親の内面世界にアプローチし、それらを科学的に分析統合することにより、ボンディング障害をもつ母親はどのような育児プロセスを踏むのかを描く。これにより、ボンディング障害と虐待的育児の因果関係を明らかにすることが可能となる。本研究は産後の抑うつ状態とボンディング障害とを踏まえた、新しい視点からの虐待的育児予防支援プログラムを提言できる。

### 3. 研究の方法

研究全体は「因果解明」および「看護介入」で構成されている。本研究では「因果解明」部分のボンディング障害と虐待的育児との因果関係の解明を行う。

#### (1) 【予備調査】

対象者：ボンディング障害をもつと思われる母親とその子ども

方法：地域の NPO が主催する育児教室に参加する。参加観察法実施。得られたデータは、GTA を用いて母親の育児行動について分析する。

#### (2) 【面接調査】

対象者：予備調査で知り合った研究協力可能な母親 10 ~ 15 名。対象者は就学前の子どもを育児している母親とする。

方法：母親には個別に面接調査を行う。「赤ちゃんへの気持ち質問票 (MIBS-J) (Yoshida, 2012)」を用いて、ボンディング障害の程度と側面を明らかにする。「育児中の出来事とその時感じた子どもへの気持ち、そしてその後の育児行動」について語ってもらう。因果関係を解明するために GTA を用いて分析する。分析結果を基に因果関係関連図を作成する。

### 4. 研究成果

研究参加者の面接調査については、COVID-19 の感染症拡大の影響を考慮し、直接対面ではなくパソコンやスマートフォンを使用した遠隔での面接調査に切り替えて実施した。その結果、9 名の参加者の面接が終了し、この後 3 名の面接を予定している。分析方法は、Grounded Theory Approach を用いた。現在、得られたデータの分析を進めている。現時点での分析の結果、以下のことが明らかになった。以下、順に述べる。なお【】は中核カテゴリー、はサブカテゴリー、< > はラベル名を示している。

#### (1) ボンディング障害の疑いのある母親が子どもに愛着を感じるプロセス

母親は自分の関心は子どもより旦那と感じており全然苦しまなかった出産体験から産んだ感じがしないと思っていた。さまざまなプロセスを経て子どもに愛着を感じないあるいは子どもと離れたくないのどちらかに至るプロセスを循環していた。子どもに愛着を持つことができたカギは【自分と少し似ている子ども】と感じたことであった。母親は愛着を感じていない自分を自覚し出産直後からの子どもとのふれあいを行っていた。そして、必死で自分と似ているところを探す行動をとっていた。子どもに自分と似ているところを発見することで徐々に子どもを「かわいい、私の子、離れたくない」と感じるようになっていた。



以上の結果から、以下4点について分かった。ボンディング障害は母親の置かれた状況と条件によりその程度が変化する、ボンディング障害は母親の置かれた状況と条件により虐待的育児を引き起こす、母親はボンディング障害を自覚している場合が多い、ボンディング障害があっても母親には様々なストレスがある、である。母親のストレスを活用することにより新たなボンディング障害への支援方法創出の可能性があると示唆された。今後は追加の面接調査および分析を進めていく。

<引用文献>

- 1) Behrendt, H., Scharke, W., Herpertz-Dahlmann, B., Konrad, K., & Firk, C.: Like mother, like child? Maternal determinants of children's early social-emotional development. *Infant Mental Health Journal*, 40: 234-247, 2019
- 2) De Bellis MD, Broussard ER, Herring DJ, et al: Psychiatric co-morbidity in caregivers and children involved in maltreatment. *Child Abuse & Neglect* 25:923-944, 2001
- 3) 片山美穂・北岡和代・相上律子: 子どもを叩いてしまう母親に対する育児友達役割 . *日本周産期メンタルヘルス学会誌*, 6(1): 83-88, 2020
- 4) 片山美穂・北岡和代・中本明世・川村みどり・森岡広美・川口めぐみ: 抑うつ状態にある母親が子どもに感じる思いから辿る育児プロセス. *日本看護科学会誌* 39: 174-182, 2019
- 5) Katayama, M. & Kitaoka, K.: Psychosocial process in mothers with depressed mood who continue to fulfill their parenting responsibilities. *Journal of Wellness and Health Care* 41(2): 9-22, 2018
- 6) Kitamura, T., Ohashi, Y., Kita, S., Haruna, M., and Kubo., R.: Depressive mood, bonding failure, and abusive parenting among mothers with three-month-old babies in a Japanese community. *Open Journal of Psychiatry*, 3; 1-7, 2013.
- 7) Muzik, M., Bocknek, E. L., Broderick, A., Richardson, P., Rosenblum, K. L., Thelen, K., & Seng, J. S.: Mother-infant bonding impairment across the first 6 months postpartum: The primacy of psychopathology in women with childhood abuse and neglect histories. *Archives of Women's Mental Health*, 16: 29-38, 2013
- 8) 日本周産期メンタルヘルス学会: 日本周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド 2017 CQ17 ボンディング障害(母親から子どもへの情緒的絆を築くことの障害)への対応は? Retrieved from: [http://pmhguideline.com/consensus\\_guide/cq17.pdf](http://pmhguideline.com/consensus_guide/cq17.pdf) (検索日:2020年7月17日)
- 9) Ohashi Y, Sakanashi K, Tanaka T, et al: Mother-to-infant bonding disorder, but not depression, 5 days after delivery is a risk factor for neonate emotional abuse. *Open Family Studies Journal* 8:27-36, 2016
- 10) O'Higgins, M., Roberts, I. S. J., Glover, V., & Taylor, A.: Mother-child bonding at 1 year: Association with symptoms of postnatal depression and bonding in the first few weeks. *Archives of Women's Mental Health* 16: 381-389, 2013
- 11) 社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会 : 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第15次報告). 厚生労働省, 東京, 65-67, 2019
- 12) 田口寿子: わが国における Maternal Filicide の現状と防止策 96 例の分析から. *精神神経学雑誌* 109(2): 110-127, 2007
- 13) Yoshida, K., Yamashita, H., Conroy, S., Marks, M., & Kumar, C.: A Japanese version of the Mother-Infant Bonding Scale: Factor structure, longitudinal changes and links with maternal mood during the early postnatal period in Japanese mothers. *Archives of Women's Mental Health* 15: 343-352, 2012

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 片山美穂, 北岡和代, 相上律子	4. 巻 6
2. 論文標題 子を叩いてしまう母親に対する育児友達役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本周産期メンタルヘルス学会誌	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katayama Miho, Kitaoka Kazuyo, Aijo Ritsuko	4. 巻 22
2. 論文標題 Mothers with depressed mood: help-seeking from husbands and child-rearing behaviors	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Women's Health	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12905-022-01604-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Katayama, M., Kitaoka, K., Aijo, R., Oda, A., Kato, C.
2. 発表標題 Mothers with Depression in Japan; Help-Seeking from Husbands and Child-Rearing Behaviors.
3. 学会等名 24th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山美穂, 相上律子, 北岡和代
2. 発表標題 ボンディング障害の疑いのある母親A氏が周囲から育児支援を得るプロセス
3. 学会等名 第14回 看護実践学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山美穂、相上律子、川口めぐみ、森岡広美、川村みどり、中本明世、北岡和代
2. 発表標題 ボンディング障害の疑いのある母親A氏が子どもに愛着を感じるプロセス
3. 学会等名 第41回 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山美穂、北岡和代、相上律子
2. 発表標題 子どもを叩いてしまう母親にとっての育児友達存在
3. 学会等名 第30回日本精神保健看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片山美穂、北岡和代、川口めぐみ、中本明世、川村みどり、森岡広美、相上律子
2. 発表標題 抑うつ状態にある母親の育児プロセスに夫の行動や態度が与える影響
3. 学会等名 第46回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片山美穂、北岡和代、相上律子
2. 発表標題 抑うつ状態にある母親の育児継続に関する心理社会的プロセス
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------